

## 中学校第3回入試を終えて

1月18日(月)、中学校の第3回入学試験を無事終了することができました。今年度は最終的に昨年度を上回る受験生をお迎えすることができました。ありがとうございました。

また、大変寒い中、さらに今年は新型コロナウイルスによる混乱と不安の中、受験生であるご子息を支えて来られた保護者の皆様の愛情と教育への熱意を思うと、教職員一同身が引き締まる思いです。大変多くの受験生をお迎えできたことは、これからの城北埼玉へのご期待と受け止め、そのご期待に応えることができる学校へ更なる成長を遂げたいと感じております。

さて、第3回入学試験では厳正な合否判定の結果140名の実受験者のうち、85名の合格者を決定し、このうち9名を特待生合格(選抜クラス)、選抜合格6名(選抜クラス)とさせて頂きました。入試結果に関する詳細は本校ホームページ上で掲載させて頂いております。加えて各教科主任からの講評も記載しております。受験生の皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。

本校の入試は今回で幕となりましたが、受験生の皆さんの未来にはまだまだ多くの可能性が秘められていると存じます。今回の結果を糧に、大きな飛躍を遂げられることを、ただただお祈り申し上げます。

能力は無限、時間は有限  
学力は試験当日まで伸びる!  
粘れ! 輝け! 受験生!!

城北埼玉中学・高等学校

校長

森泉秀雄

## 国語 講評

まずはじめに、問題に誤りがありましたこととお詫びします。すべての受験生の皆さんに不利益がないよう採点いたしました。申し訳ありませんでした。

次に採点してみたの講評です。

□ の問4「高をくくる」。「高をくくる」は、(あることの)程度を予測する、大したことはないと思えるという意味です。「高(たか)をくくってひどい目にあう」というように使います。直前の「なんとかなるだろうと・・・」がヒントになります。第1回入試、第2回入試においても、慣用句などの言葉に関する問題の正答率が低くなりました。暗記ということではなく、普段からできるだけ多くの文章に触れるように心がけ、言葉に関心を持つようにしてください。

また問13ですが「適当でないものを一つ」という問題でしたが、見落としてしまった人が少なくなかったように採点していて感じました。

今日で城北埼玉中学校の本年度の入学試験が終わりました。受験生の皆さん本当にお疲れ様でした。令和3年4月。満開の桜の下で皆さんと笑顔でお会いできることを心から楽しみにしています。

最後に、コロナ禍という未曾有の一年、ご息をここまで支えてくださった保護者の皆様方、そして塾の先生方、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

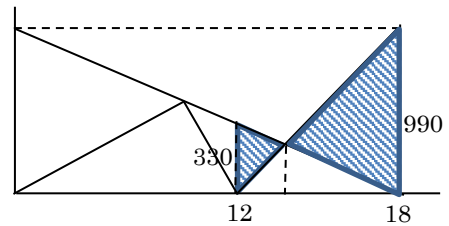
国語科主任 高橋浩一郎

算数 講評

1 基本的な計算，標準的な文章問題，図形の見方を問う問題でした。(4)の計算記号の問題の③も②同様に1つずつ丁寧に△が1から9のときを書き出してみると考えるべきことが分かります。

2 食塩水の問題でした。(2)はかき混ぜた後のAとBの濃度は等しいので，Aの260gとBの240gのすべてを混ぜて再びAに260g，Bに240gに分けることと同じです。

3 速さの問題でした。(3)は右図のあみかけの2つの三角形に注目すると，それらは相似となっており，辺の比は1:3です。このことから①，②はどちらから計算してももとまります。



4 (1)(2)は良くできていました。(3)については15秒以降，1秒ごとの枚数を書き出し，実際に割り算を実行していくと求められます。特に規則性の問題はこのような実験する姿勢が大切です。

本校の入試はこれで終わりますが、受験生の皆さんにとってはこれからが正念場だと思います。皆さんの健闘をお祈りします。まだまだ寒い日が続きます。健康に気を付けて最後の最後まで頑張ってください。また、4月に再会できた時には喜んで歓迎します。

数学科主任 池上雅史

## 社会 講評

### 〈 地理分野 〉

「島」をテーマにした出題でした。本校入試・地理分野では何度も出題されているもので、アレンジを加えての作問をしてみました。

問1（1）は記述だと誤答が増えるので、選択問題としたのですが……。問2では第2回入試でもあった県名を記述する問題でしたが苦戦した受験生諸君が多かったようです。

問3のAは淡路島、Bは佐渡島、Cは屋久島。地図を用いた学習と、その島・地域に関連する情報を丁寧に学習していれば正解できたでしょう。問4の沖ノ鳥島は慌てて書くと間違えてしまい、与那国島は漢字そのものを間違えやすいものでした。

問6（1）の排他的経済水域の概念（意味づけ）は、きちんと読まないと間違えてしまうかもしれない質問でした。

### 〈 歴史分野 〉

第2回に引き続き「世界遺産」がテーマの出題でした。本校の過去問題だったり、第2回入試の表を使って復習した受験生諸君にとっては解きやすい問題が多かったことでしょう。今回は語句記述が多かったのですが、「爆」「巖」「泉」の誤記が多かったと感じています。また日光東照宮を知っていて、説明を聞いたことがあるはずですが、「陽明門」の正答率は低かったようです。今年は第2回・3回と世界遺産に注目した出題でした。来年以降も部分的には世界遺産の出題があると思います。資料集等を用いて、しっかり丁寧な学習を心がけましょう。

### 〈 公民分野 〉

国民の三大原理や国政選挙についてはよく勉強していました（問1と問7）。昭和22年が西暦何年であるかわからない受験生諸君がほとんどだと思いますが、文中の「第1回の国会」、「初の国会」をヒントにすれば正答を選べたはず（問2）。また、昭和・平成・令和それぞれの時代におこった出来事を選択する問題は、昭和に関して選択肢をしぼることと、安倍内閣総理大臣が二度辞任していることがわかっていれば正答を選べます（問5）。ALS やコロナ禍に関する時事的な問題（問6と問9）、そしてグラフの読み取り問題（問8）の正答率は高かったです。なお、現首相の氏名は一般常識として漢字で書けるようにしておきましょう（問4）。

受験生の皆さん、本校入試はこれで終了しました。

これからも受験が続くかと存じますが、休養をとりつつ注意力を働かせて勉強を頑張ってください。これまで積み重ねてきた努力、これから取り組む努力が実を結ぶようにと応援しています。

## 理科 講評

1 磁石と磁界に関する問題でした。磁石は同じ極同士が反発し、異なる極同士が引き合う関係があります。この性質と磁界の影響から磁石が受ける力を理解することが重要です。地球上にある磁石の N 極は、地球の磁界から北側に向くような力を受けること。電流のまわりには磁界が発生すること。これらを考えた上で、磁石がどちら側に動くか、文章や図を見ながら、実際にどのように動くかをイメージすることが問題を解く上でのカギになります。電流がつくる磁界は導線の上と下で方向が異なるので、立体的なイメージをしましょう。地球のつくる磁場もあるので混乱しないように一つずつ分けて考えるとよいでしょう。

また問 2 は、考え方によっては答えが分かる作りになっておりました。問題文と図 2 を照らし合わせたときに、磁石を置く前のトレイの状況が複数考えられることから、ア、イともに正解とさせていただいております。

2 水溶液の性質に関する問題でした。問 2 と問 4 で苦戦した受験生が多くみられましたが、全体的によくできていました。

実験 1 の結果より A と B はうすい塩酸とアンモニア水、実験 2 の結果より A は酸性であることが分かるので、A はうすい塩酸、B はアンモニア水だということが分かります。実験 3 は二酸化炭素と石灰水の反応なので、C は石灰水だということが分かります。D と E はうすい水酸化ナトリウム水溶液と食塩水で、この二つを区別するために実験 4 で操作をおこないました。問 2 のアとウの操作をおこなうと、いずれもうすい水酸化ナトリウム水溶液のみ反応します。(アは青色に変化し、ウは赤色に変化します。) イはどちらも反応しません。(鉄片を入れると気体が発生するのは酸性の水溶液です。) したがって、D はうすい水酸化ナトリウム水溶液、E は食塩水だということが分かります。問 4 は固体がとけている水溶液である石灰水、うすい水酸化ナトリウム水溶液、食塩水が正解です。塩酸とアンモニア水はいずれも気体をとけている水溶液です。

本校の理科の授業では、今回の問題のような水溶液の性質を調べる実験を毎年おこなっています。受験生の皆さんと一緒に実験ができることを心から楽しみにしています。

3 人のからだに関する問題でした。第 1 回入試でも出題した分野のため、復習を丁寧に行った受験生は高得点を取ることができたと思います。

生物分野においては、知識の暗記が必須です。ですが、単純に暗記するのではなく、知識を頭に入れる際には、「なぜそのような仕組みになっているのか」を関連させて理解することが大切です。例えば、問 5 (2) では、小腸で吸収した栄養分を肝臓で蓄える、というからだの仕組みの理解が必要です。また、仕組みを理解する際には、「なぜそうなるのか？」といった科学への興味も大切です。今後も継続して、自

分の興味関心を育てましょう。

問 7 は、赤血球の性質に関する問題でした。ヒトでは、肺で酸素を吸収し、組織で酸素を利用します。このことから、赤血球の性質を考えると、「酸素が多いところでは酸素と結びつき、酸素が少ないところでは酸素を離す」という性質が理解できます。

4 ここ数年恒例の、天体と人工衛星等に関する問題でした。

問 2 地球から太陽までの距離は、地球から月までの距離のおよそ 400 倍という知識があった受験生は一定数いたようですが、それを計算で出してもらった問題でした。宇宙空間では光の速さは一定なので、距離は光が進むのにかかった時間に比例します。光が地球から太陽まで進むのに 8 分 19 秒、つまり 499 秒かかりますので、 $499 \div 1.3 = 383.8\dots$ となります。問題文にはっきりと「小数第 1 位を四捨五入して整数で答えなさい。」と指示があるにもかかわらず、383、383.8、385 という答えが散見されました。落ち着いて問題文を読んで答えてもらいたいと思います。

理科主任 小澤 修